

「出題の意図」

研究科・選抜区分・専攻等	2026年度（選抜区分：社会システム研究科 夏期日程 博士前期課程） （領域・分野・研究科目・選択科目：文化・言語専攻 一般問題 【英語】）
出題の意図 （評価のポイント）	問題 1 【出題の背景・出典】 第 1 問では、受験者に対し、西洋文学・西洋文化の分野における短い学術的文章の翻訳を求めています。使用されている語彙や専門用語は、志望する大学院課程での学修内容と密接に関連しています。文学理論や文書分析の分野における英語の学術的議論を理解する能力は、この分野での学修において極めて重要です。 【求める能力】 第 1 問に対する模範的な解答では、課題文に含まれる英語の語彙や専門用語を正確に理解し、それを的確かつ正確に日本語へ翻訳する力が示されます。また、翻訳にあたってのアプローチの選択と、その選択したアプローチを一貫して維持することも重要な評価ポイントとなります。 【解説】 第 1 問は、志望分野において大学院レベルの研究活動を行うために必要とされる高度な英語力および日本語力を受験者が備えているかどうかを確認することを目的としています。また、この問題に取り組む際には、英語の文章を日本語に翻訳する際に、語調や文体の一貫性および正確性を

保つ能力を示す機会ともなります。

問題 2

【出題の背景・出典】

第 2 問では、受験者に対し、志望する大学院課程での学修に直接関連する文学・文化研究分野の一領域について論じる小論文の執筆を求めています。この分野における複雑な問題を文章で論じる能力は、当該分野での学修を成功させるうえで極めて重要です。

【求める能力】

第 2 問に対する模範的な解答では、アカデミックな英語運用能力、批判的思考力、専門知識、そして論理的な議論構成力が示されます。特に重要なのは、この設問が、受験者に対して西洋文学・西洋文化に関する深い知識を示す機会を提供している点です。文学や文化研究の領域から適切な具体例を挙げて議論を補強・明確化することが、評価の重要な要素となります。

【解説】

第 2 問は、志望する分野において大学院レベルで研究に関する考察や成果を文章によって伝えるために必要な、高度な英語運用能力、批判的思考力、専門知識、および論理的な論述力を受験者が備えているかどうかを確

認することを目的としています。

2026 年度の試験では、受験者に対して、サミュエル・ベケットの初期の小説『マーフィー』に関する短い議論文を翻訳し、その後、小説と映画の伝達的特徴における相違点および共通点について論じる小論文を執筆することが求められました。解答の多くは非常に優れたものでしたが、以下の点において難しさが見られました：

1. 複雑な英語の文法構造を正確に日本語の文法形式に訳すこと
2. 論じられた文学理論・文化理論の領域と適切に結びつけるための、西洋文学・西洋文化に関する適切な具体例の選択

【解答のためのアドバイス】

問題 1

- 文法の間違いは少ないほうが好ましい。また語句を適切に選択することは重要である。
- 適切な翻訳方針を選択し、その方針を翻訳全体を通して一貫して維持した方がいい。

問題 2

- 問題文の要求に即した文章を作成することが好ましい。本質から逸脱することなく、周辺的な問題に振り回されない姿勢が求めら

れる。

- 論理的に構成すること。自分の立場を明確にし、そのための根拠や例を正確に示すこと。
- 知識を提示し、意見や考察を述べる際には、適切かつ一般的に認知された学術用語を用いることが求められる。